



京丹波町

令和4年1月 第21号

シルバーだより



会員 佐藤英雄さんの作品より

目次

理事長あいさつ	1	会員の作業風景	4
町長あいさつ	2	シルバー人材センターの仕事	5
会員の声	3		

新年のご挨拶



理事長 山田 實

あけましておめでとうございます。
皆様にはご家族お揃いで健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は、京丹波町シルバー人材センターに対しまして、格別のご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、一昨年から猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、一定落ち着きを見せていますが、海外では、新種の変異株が次々と出てきており、今後も気を許すことは出来ない状況となっています。

国等の対策を信じ、今まで以上に感染防止に努めることにより、コロナ禍が一日でも早く終息し、安全な生活が取り戻せることを心から願うところでございます。

当シルバー人材センターは、「健康で働く意欲のある高齢者」が働くことを通じて「生きがいの充実を図り、地域社会に寄与する事」を目的として、国や京都府・京丹波町のご支援のもと、平成18年に設立し、平成23年4月より公益社団法人として認定を受け、安全・適正就業を第一に考え事業の推進に努めているところでございます。

わが国では、少子高齢化に伴い人口減少に歯

止めがかからない現状の中で、地域社会の活力を維持していくためには、高齢者が生涯現役として、長年培ってこられた「知識・経験・技能等」を活かし、地域社会の一員として生き生きと働き、学び、ボランティア活動等、多様な形で社会参加することが求められています。

また、地域における高齢者の中核的な活動拠点として、高齢者が福祉の受け手ではなく社会の担い手になり、いつまでも生き生きと活躍していただくために、高齢者の就業機会の確保、提供を行うシルバー人材センターの果たす役割はますます重要なものとなっています。

生涯現役社会を目指し、全国的に会員拡大に力を入れ取り組んでおりますので、その趣旨をご理解いただき、多くの皆様のご加入をお願いいたします。

今年も基本理念であります「自主・自立、共働・共助」の精神で、安全・適正就業に心掛け、皆様から愛され信頼される、シルバー人材センターとなるように、役職員一丸となって努力する所存でございます。

結びに皆様のますますのご健勝、ご多幸を心からご祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

新年のごあいさつ



京丹波町長 畠中 源一

新年あけましておめでとうございます。

京丹波町シルバー人材センターの会員の皆様には、お健やかに新年をお迎えになられたことと心からお喜び申し上げます。

日頃は、町政の推進に、格別の御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

京丹波町シルバー人材センターにおかれましては、理事長を先頭に、会員、役職員が一丸となって、「自主・自立・共働・共助」の事業理念のもと、会員の皆様の豊富な知識と経験を生かしながら、活力ある地域づくりに御貢献をいただいておりますことに、衷心から敬意と感謝の意を表します。

さて、一昨年から全世界で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、我が国においては、昨年9月30日の緊急事態措置の解除後、感染対策の取組とワクチン接種の推進等によって、新規感染者数が大幅に減少しております。しかしながら、国内ではクラスターの発生、海外では変異株による感染の再拡大など依然として予断を許さない状況にあります。皆様におかれましては、御不便をおかけしますが、引き続き基本的な感染対策への御協力をお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会経済活動の停滞、高齢者の雇用環境の

変化など大変厳しい状況にあつて、京丹波町シルバー人材センターでは、就業機会や会員相互の交流の機会の確保など、様々な御苦勞をいただいていることと考えております。会員の皆様の生きがいと健康づくり、町の活性化にとって、シルバー人材センターの果たす役割は、今後益々重要になると考えております。本町といたしましても、会員の皆様お一人お一人の能力を生かし、地域社会への参加と活躍の機会を創出するシルバー人材センターの運営を引き続き支援して参りたいと考えております。

結びに当たり、京丹波町シルバー人材センターのますますの御発展と、会員の皆様、御家族の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

令和4年1月



職員一同	谷口 誠	専務理事兼事務局長	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	副理事長	理事長	
			松村 篤郎	野間 芳朗	吉田美枝子	松野 堯俊	原澤 清	谷山 正	竹内美代子	梅原 主次	室 忠志	山田 實

本年もどうぞよろしく
お願い申し上げます

謹賀新年

会員の声

今日も、一日ご安全に！

柏木 勝美 (橋爪)

高齢者になっても元気に働けることに感謝しています。この年齢になって、人の役にたてること、仕事をいただけることが、これほどありがたいことなのです。シルバー人材センターの仕事がある日は楽しみです。そして楽しいです。仕事を終えて家へ帰ると、お風呂の用意も夕飯の用意もしてくれている家族に、ありがとうの言葉が自然と出ます。あたり前のことを、ありがたく思えるのも、年をとったからでしょうか。怒ったらあかん、優しいおじいちゃんになりやと、日々言われています。

自分が若い頃、働いているおじいちゃん、おばあちゃんを見て、えらいなあ、ようがんばらはるなあと思ったものでした。私も、ようがんばらはるなあと言われてもらえるおじいちゃんできて、とにかく体を大切に無理をしないでシルバー人材センターのお仕事ができるようにがんばりたいです。年寄りの知恵というもの、生かして、お役にたてたいものです。

シルバー人材センターの仕事に行く前に家族から、『今日もご安全に！』と言ってもらっています。朝ドラの『ひよっこ』のセリフであつたらしいです。

シルバー人材センターへの思い

片山 栄治 (広瀬)

私は、6度目の年男、寅年を迎えました。シルバー人材センターには、平成24年に入会し、早いもので9年が過ぎようとしています。入会時は、60歳前半で会員のメンバーと草刈りや冬季には最寄りの駅の除雪作業等を行っていましたが、現在では、水道メーターの検針業務に従事し、悪天候にも対応し、体調管理に留意しながら、元気に勤めております。

また、普段は自宅で水稲や野菜の栽培に携わりながら楽しい日々を過ごしており、やはりこれもシルバー人材センターから任された仕事を行なうことに、責任感もあり働くことが生きがいに繋がっていると深く感じ、これらの仕事が刺激になって頑張れていると思います。

今後、健康に気をつけ、一日でも長く、生きがいをもって勤めていきたいと、改めて決意を新たにしております。

6回目の寅年を迎えて

林 諭 (安井)

新年あけましておめでとうございます。ご家族お揃いでご機嫌よく新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昭和25年2月3日に、今、住んでいるところで誕生して、今年で6回目の干支が回ってきました。振り返ってみますと、高校を卒業するまで家族に支えられて過ごし、就職で故郷を離れて大阪府高槻市での生活となりました。自分にとっては、親の目や地域の目から解放されて、気楽な日々を過ごしました。

ところが、5年目に父親が急死して、家を守るため、長男の宿命で故郷へ帰ってきました。若くして父親世代の人達との付き合いが当時は辛かったことを思い出します。また、妹2人の結婚など、父親の役割もありました。今思うと若い時から世間との付き合いが、その後の人生に役に立ったと思っています。

その後、結婚、子供の誕生など恵まれた日々を過ごし、平成17年に37年間務めた会社生活に終止符を打ち、シルバー人材センターにお世話になり、12年になります。入会させてもらって、地域の人達との交流、地域の貢献などで、還暦後の充実した日々を過ごさせていただいております。

今後は、健康に留意して益々元気で、次の寅年に向かって頑張ります。



互助会京丹波シルバー働悠会 グラウンド・ゴルフ大会

会員の作業風景



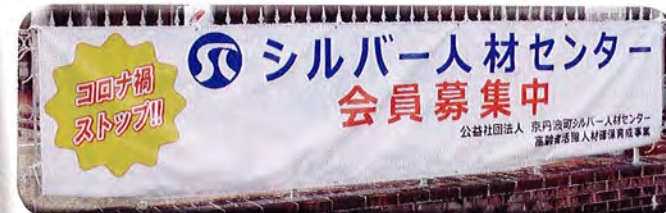
ボランティア活動 (長老苑)



雨トユの修理



垣根の枝切り



大工作业



剪定作業



剪定作業

監事	監事	幹事	幹事	幹事	幹事	副会長	副会長	会長	あけましておめでとうございます 皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします 今年もよろしくお祈りいたします	会員互助会役員
森俊一	西垣美佐子	林諭	中村康男	田代良孝	門隆雄	榎本藤雄	上田操	山田實		

